書 評・紹 介

John C. Caldwell and Gigi Santow,

Selected Readings in the Cultural, Social and Behavioural Determinants of Health (Health Transition Series No.1)

The Australian National University, 1989, xix + 305pp.

本書は，オーストラリア国立大学の Health Transition Center が合衆国のロックフェラー財団の支援を受けて行ったプロジェクト，すなわち「健康に関する文化的，社会的，行動的決定要因の研究」の成果としてとりまとめられたものの一部である．本書はシリーズ全体として3冊刊行された研究成果の第1巻に当たるもので，他の第2巻と第3巻は，上述のプロジェクトの一環として行われたワークショップに提出された論文集からなっている．

さて，以前からオーストラリア国立大学では，死亡ならびに健康に関する研究を幅広く進めてきた．とくにコードウエルを中心として，文化的，社会的，あるいは行動的要因を重要視した健康・死亡研究を行い，発展途上国の死亡率転換に関する優れた研究業績を上げてきているところである．そのように長らく健康・死亡の研究にかかわってきた研究者達が，主として1985年以降に発表されたこの分野の主要な研究論文を厳選し，収録したのが本書である．

本書の構成についてふれて置こう．全体は4部構成からなっており，第1部では「死亡転換」と題して，発展途上国の死亡転換を論ずる際に必ずといって良いほど引用されるコードウエルの論文を始め，プレストの論文等が収録されている．第2部では，「教育」と題し，教育が死亡率，とくに乳幼児死亡率に及ぼす影響・効果に関する論文が4篇ほど収録されている．第3部では，「家族行動」と題して，家族における性差，役割構造と栄養・健康との関係（D'Souza 論文）と社会人類学的視点から乳児死亡と家族行動をとらえた論文が収録されている．第4部では，「メカニズム：人類学的調査研究」と題し，乳児死亡率に関して，人類学的視点から村落集団を子細に分析した研究論文が3篇掲載されている．第5部では，「健康政策プログラム」と題し，プログラムの効果分析に関する論文が2篇ほど収録されている．

さて，本書の価値についてもう少しふれて置こう．死亡・健康研究の基本的な分析視点としては，従来から保健環境要因，経済要因，栄養要因などを主軸にした研究が行われていた．ところで，1970年代以降，とくに世界出産力データを用いた乳幼児死亡率研究を契機として，「教育」の死亡率に対する影響が明らかになり，本書の表題ともなっている文化的，社会的要因が重要視されるようになった．さらに，方法論的には，人口学のこれまで主流であったマクロ・データの形式人口学的研究からより子細な実態調査データに基づいた研究へと深化し，ヴィレッジ・デモグラフィと呼ばれるような人類学的な人口学へと発展してきている．そのような健康・死亡研究の深化を先導的に行ってきたのが，本書の編者であるコードウエルやサントウである．その意味において本書は，1970年代から1980年代末にかけての健康・死亡研究が切り開いてきた研究を後付け，研究の到達点を集大成したという性格をもっているのである．

本書に収録された論文は，いずれも高い評価を受けている論文で，途上国の健康・死亡研究に関心のある研究者にとっては，ぜひとも押さえておかなければならない基本的な論文集であるといえよう．また，本書のシリーズの第2巻と第3巻も健康・死亡研究にとって極めて重要なものであることを付記しておきたい．

（髙橋重郷）